

1 産地の概要

<対象地域> 中津川市苗木地域

<対象品目> 水稻

<産地の現状・課題>

- ・苗木地域では、高齢化により水田を委託する農業者が増えており、担い手農業者への農地集積が進んでいる。現在はラジコン(RC)ヘリ防除を行っているが、水田と住宅が混在しているため、農薬防除を省力化しつつ、より騒音とドリフトの少ない農薬散布方法が求められている。
- ・また、苗木地区の水田用水源は限られており、点在する多数の水田において効率的に水管理がされないと水田の用水不足が発生するため、経営面積拡大の制限要因となっている。さらに、水田によって元肥の効き方が異なるため、適切な追肥をしないと、単収が上がらない状況がある。

2 検討体制

- ・農業者(技術検証)
- ・岐阜県恵那農林事務所農業普及課
(技術検証調査の計画、実施、結果分析、結果の普及)
- ・JAひがしみの(技術検証調査結果の普及の営農対策的支援)
- ・中津川市役所(技術検証調査結果の普及の行政的支援)



水位管理システムの検証



ドローンによる農薬散布の検証

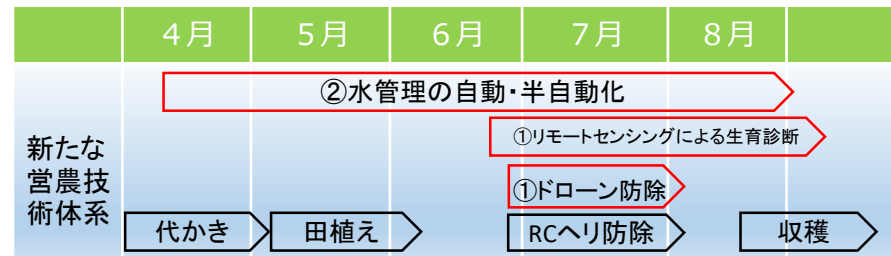
3 新たな営農技術体系への転換

<目指す産地像>

総合的な水位管理システムの導入や、ドローンによる農薬散布による騒音低減、省力化を通じ生産経費の削減を図る。また、リモートセンシングによる生育診断調査により適切な追肥を行い、収量増加を図る。



- ①農業用ドローン導入(農薬散布、センシング)
②水位管理システム導入



<新たな営農技術体系の効果(検証結果)>

- ・薬散のドリフト範囲は、RCヘリは10m以上であったが、ドローンは5m以内であった。**約5割↓**
- ・水位管理システムの活用により、見回り作業時間は半減するとともに水田の用水不足は発生しなかった。**約5割↓**

<新たな営農技術体系の今後の取組内容>

支援取組主体	R2	R3	R4
恵那農林普及組織	スマート農業機械の情報収集、普及活動		
JAひがしみの	スマート農業機械の研修会、導入支援活動		
中津川市	産地に適したスマート農業技術の導入支援		